

トラック輸送情報（平成16年7月分）

平成16年10月 7日
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
担当：高橋、荒木 内線28315
直通：03-5253-8342
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

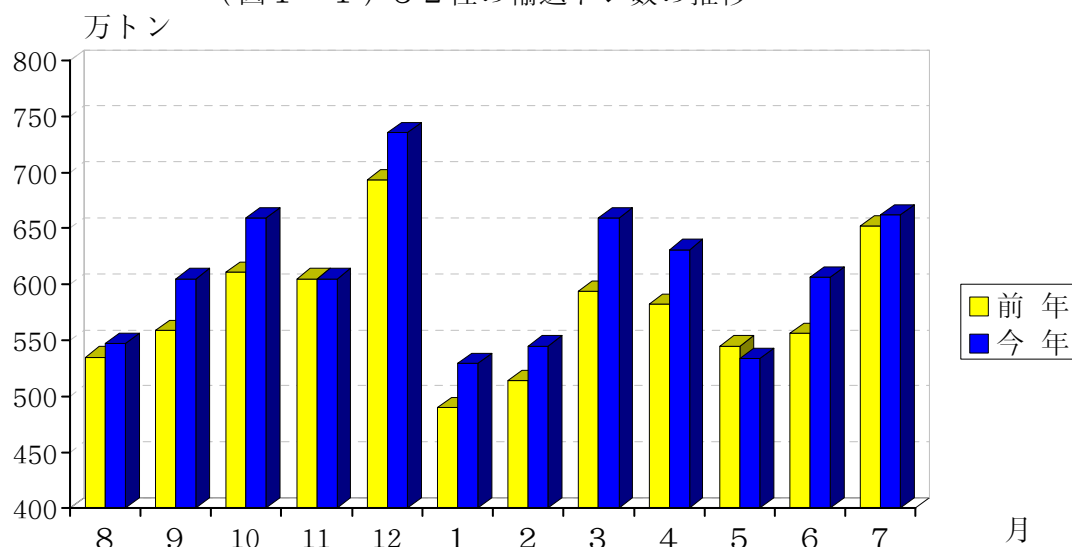
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

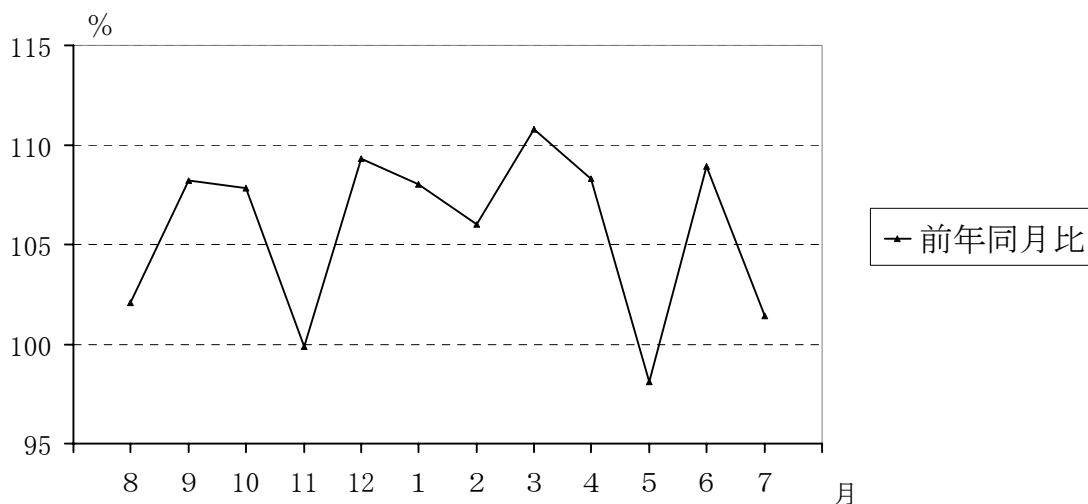
調査対象32社の本月の輸送量は、6,615,279トンで、前月と比べ、総輸送量が約56万トン増加したため、前月比109.2%（季節調整済み98.6%）、前年同月と比べると、約9万トン増加したため、前年同月比101.4%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、25.1日で、前月と比べ、0.2日の減少、前年同月と比べると、0.5日の減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、263,557トンで、前月と比べ、約2万トン増加したため、前月比110.1%、前年同月と比べると、約9千トン増加したため、前年同月比103.4%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 32社の輸送トン数の推移



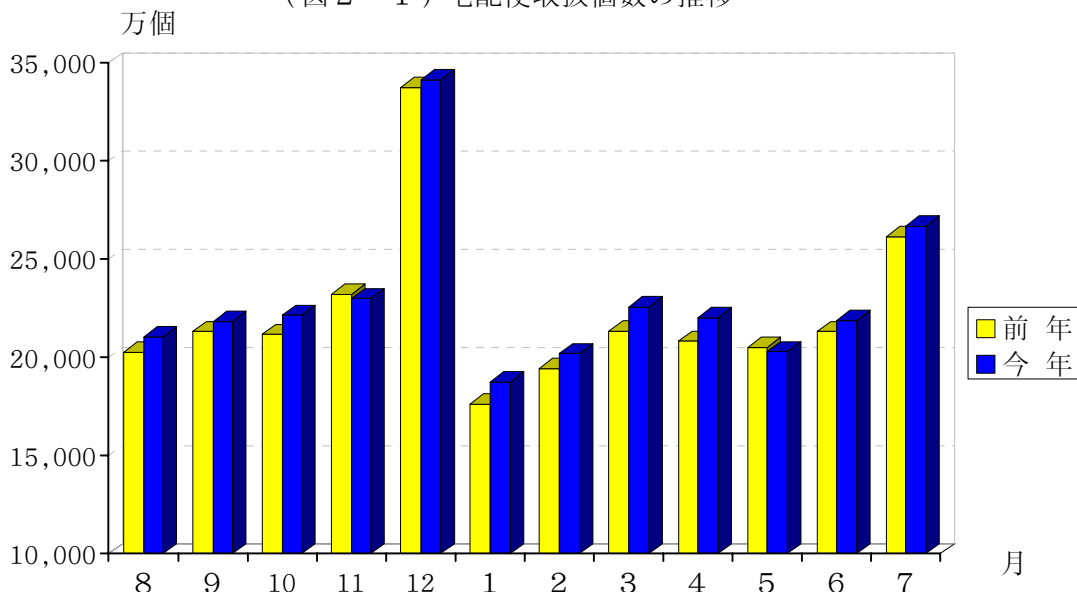
(図1-2) 32社の輸送トン数の前年同月比



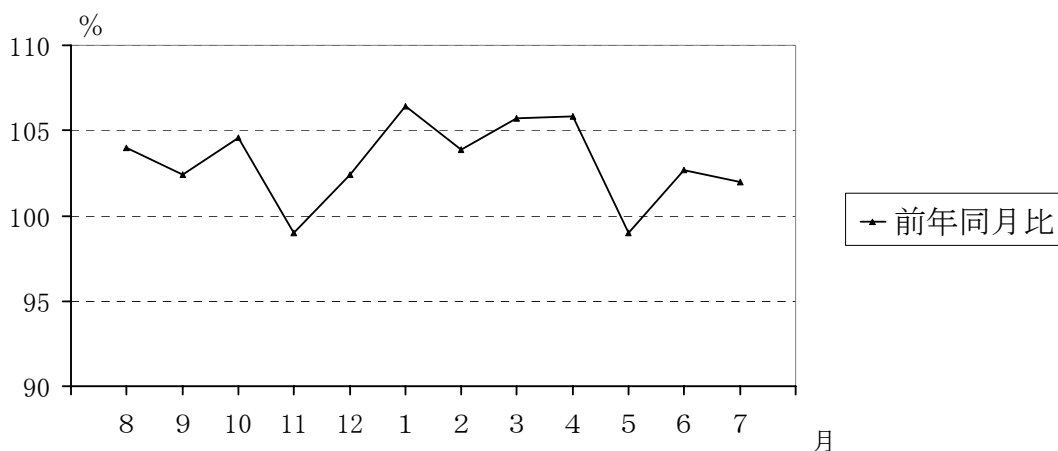
(2) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、266,734千個で、前月と比べ、約 4778万個増加したため、前月比 121.8% (季節調整済み 96.1%)、前年同月と比べると、約 527万個増加したため、前年同月比 102.0%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、お中元期の影響で、食料工業品、日用品、その他 (宅配貨物、百貨店配送品) を中心に輸送の増加を示している。理由としてはほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増を主な理由としている。また、食料工業品、日用品、その他はデパート等からの貨物増もみられた。地域的には農水産品は北海道、東北、中国、九州で輸送の増加が見られ、農水産品以外の品目においては関東、中部、近畿地区を中心に輸送の増加が見られた。

前年同月と比べると、品目により輸送の増減がみられた。特に食料工業品は昨年よりも気温が非常に高かったことにより、飲料を中心として輸送の増加がみられた。理由としてはほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増、貨物減を主な理由としている。地域的には農水産品は東北、九州で増加し、中国で減少が見られ、農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に、機械、食料工業品は増加、金属製品、日用品は減少が見られた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 らず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	3	13		1	野菜、果物	北海道、東北、中国、九州	4, 8
							野菜	中国
	金属製品	7	16	3		建築用金属製品	関東、愛知、中部	4,5,6,9
							鋼材	関東、中部
	機械	7	19	1		家電製品、機械部品	東京、関東	4,7,8
	化学工業品	7	16	5		化学薬品、その他の化学工業品	神奈川、関東、愛知、大阪、中国	1,4,7
							合成樹脂	関東
	繊維工業品	2	22	4		織物	愛知、中部	4, 8
							織物、繊維	東京、神奈川、関東
	食料工業品	2	11	11	3	加工食品、飲料	東京、神奈川、関東、愛知、大阪、中国、福岡	2,4,5,7,8
						加工食品	関東	4
日用品		14	12	1	印刷物、文具、玩具	関東、近畿、東北、北陸信越、九州ほか	2,4,7,8	
その他	2	6	19		宅配貨物、百貨店配送品	東京、神奈川、関東、大阪ほか	2,7,8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2	14	1		野菜	東北、九州	4, 10
							野菜	中国
	金属製品	3	18	5		建築用金属製品	東京、神奈川、大阪、中国	4, 9
							建築用金属製品	関東、中部、近畿ほか
	機械	8	18		1	機械部品	東京、神奈川、関東、大阪、兵庫、近畿、中国	4, 9
	化学工業品	7	14	7		塗料、その他の化学工業品	関東	7, 9
							合成樹脂	東京、神奈川、関東、北陸信越、大阪、中国
	繊維工業品	4	19	5		織物、繊維	東京、神奈川、関東、中部、大阪、兵庫	4,7,9
							繊維	中国、東京、関東、兵庫、近畿
	食料工業品	15	10	1	1	加工食品、飲料	関東、東京、大阪、神奈川ほか	4,5,7,9
						飲料	大阪、近畿	1,5,7
日用品		2	20	3	1	印刷物	東京、神奈川	1,4,9
その他	1	3	20	3		宅配貨物、百貨店配送品	神奈川、大阪、近畿、東京、関東ほか	1,3,4,7,9
						宅配貨物、百貨店配送品	神奈川、関東	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 845社 / 調査対象事業者数 1,077社）の輸送量は、前年同月比 101.9%、前月比 104.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	101.9%	100.3%	102.5%	101.0%	98.4%	104.2%	102.5%	107.6%	100.2%	103.2%	106.8%
前月比	104.0%	105.4%	104.8%	103.7%	106.6%	102.2%	103.7%	107.6%	101.3%	101.9%	97.6%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	先月から引き続き好天に恵まれ各種工事が好調に推移してきており、工事関連資材の輸送が順調に増加したため、対前月比105.4%となった。一方、対前年同月比は100.3%と大きな伸びはなく平年並みであった。今後の見通しは、お盆をはさむため一時的に減少するが、以降は工事関連資材の輸送量の維持が期待でき、上昇傾向で推移するものと思われる。
東北	本月は、先月に引き続き気温が高い日が多かったこと、また季節的需要(お中元等)が多かったことなどから「野菜・果物」「食料工業品」の増加が目立った。このため対前月比は104.8%、対前年同月比は102.5%であった。今後の輸送見通しは次月は減少するが、以降はほぼ横這い傾向にある。
関東	本月の輸送は、連日の猛暑による飲料等の需要増に伴い、「食料工業品」の増加が目立った。また、お中元シーズンでもあり、「取り合せ品」も増加した。このため、対前月比103.7%となり、対前年同月比も101.0%と増加した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。
北陸信越	収穫期により「野菜・果物」が、また土木工事の需要増により「砂利・砂・石材」「その他の窯業品」等の輸送増がみられたがため、対前月比106.6%と増加したが、中旬に新潟県を中心とした集中豪雨の被害により被災地域の出入荷の減少がみられたため、対前年同月比98.4%と減少した。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降は横ばい傾向にある。
中部	本月の輸送は、対前月比は102.2%、また対前年同月比も104.2%と増加した。中元時期により「日用品」、猛暑の影響により「揮発油」「食料工業品」の輸送が増加した。反対に「その他製造工業品」「金属製品」が出荷減により減少した。また、福井県内に降った豪雨の影響により工場の稼働停止や生活品の一時的なストップがわずかではあるが影響している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。
近畿	本月の輸送は対前月比103.7%と先月に続いて増加した。品目別に見ると「機械」と「食料工業品」の増加が目立っている。これは記録的な猛暑に見舞われたため、冷房器具や飲料の出荷が大きく伸びたためと思われる。また中元期にあたるため、「畜産品」「水産品」「取り合せ品」も増加した。対前年同月比でも102.5%と増加している。今後の輸送見通しについては次月及び以降とも減少と予想される。
中国	本月の輸送は、お中元期の需要増により、「飲料工業品」等に輸送量増加がみられたため、対前月比が107.6%と増加した。また、今年は猛暑の影響により飲料水の増加がみられたことから、対前年同月比は107.6%と増加している。今後の輸送の見通しについては、次月は上昇傾向にあるが、以降はほぼ横ばい傾向にある。
四国	今月の輸送は、対前月比101.3%、対前年同月比100.2%の微増であった。天候(猛暑)の影響により「機械(エアコン)」「食料工業品(飲料水)」の輸送が増加する一方で「野菜・果物」「金属製品」「その他窯業品」の減少が見られた。季節的需要により「揮発油」「食料工業品」「日用品」「取り合せ品」の増加、「繊維工業品」「動植物飼・肥料」が減少した。今後の輸送量は減少傾向にあり、台風被害による農産物等の減少が予想される。
九州	本月の輸送の感触は前月比101.9%であることから、全体の輸送量は前月と比べて微増したようである。今夏は記録的な猛暑であり、品目によっては輸送量の増減に大きな影響を受けたものがあつた。季節的な需要増により「食料工業品(飲料等)」「機械(空調機器)」、お中元シーズンにより「日用品」、出荷時期により「野菜・果物」の輸送量が増加した。一方、水揚げ量の減少を要因として「水産品」の輸送量減少を指摘する事業者もあつた。対前年同月比も103.2%であった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。
沖縄	本月の輸送は、「食料工業品(飲料)」「紙・パルプ(ロールペーパー等)」「日用品(お盆用雑貨類)等」で季節的な輸送需要増加がみられたが、反面、「その他の農産品(切り花)」「水産品(マグロ)」「取り合わせ品(引越貨物)」の季節的需要減による減少が見られた。このため、対前月比では97.6%、対前年同月比では106.8%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が見込まれる。

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
品目	増	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6
	減	1	1	0	2	0	0	1	0	1	0	6
1. 穀物	増	0	8	2	2	0	0	1	0	5	0	18
	減	0	1	2	0	1	0	1	1	4	0	10
2. 野菜・果物	増	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
3. その他の農産品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4
4. 畜産品	増	0	1	0	0	0	1	1	1	3	0	7
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	5
5. 水産品	増	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0	5
	減	3	1	0	1	0	0	0	0	3	0	8
6. 木材	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 薪炭	増	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8. 石炭	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9. 金属鉱物	増	12	2	0	2	0	0	3	1	3	0	23
	減	8	0	0	2	0	0	1	0	1	0	12
10. 砂利・砂・石材	増	1	1	0	0	0	0	2	0	2	0	6
	減	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
11. 工業用非金属鉱物	増	0	0	1	0	0	1	3	0	1	0	6
	減	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
12. 鉄鋼	増	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	4
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
13. 非鉄金属	増	3	2	1	1	0	1	0	0	1	0	9
	減	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	4
14. 金属製品	増	0	1	3	2	1	4	0	4	6	0	21
	減	0	0	2	2	0	0	1	0	2	0	7
15. 機械	増	4	2	0	2	2	0	1	2	1	0	14
	減	1	0	0	0	0	0	2	0	3	0	6
16. セメント	増	1	0	0	5	0	1	1	0	1	0	9
	減	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	4
17. その他の窯業品	増	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	2	1	0	1	1	0	0	1	0	0
18.揮発油	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
19.その他の石油製品	増	1	0	1	3	0	1	0	0	1	0	7
	減	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
20.コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21.化学薬品	増	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
22.化学肥料	増	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	減	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	4
23.その他の化学工業品	増	0	0	1	2	0	0	0	0	2	0	5
	減	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
24.紙・パルプ	増	3	1	3	1	0	1	1	1	2	1	14
	減	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4
25.繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
26.食料工業品	増	5	13	3	2	1	4	2	4	14	1	49
	減	0	2	0	1	0	0	0	2	1	0	6
27.日用品	増	2	1	0	0	2	1	0	1	7	1	15
	減	1	2	0	1	0	2	0	1	1	0	8
28.その他の製造工業品	増	1	1	0	0	0	1	2	1	4	0	10
	減	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	5
29.金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30.その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31.動植物性飼・肥料	増	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	4
	減	1	0	2	0	0	0	0	2	4	0	9
32.廃棄物	増	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4
	減	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	4
33.輸送用容器	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34.取り合せ品	増	0	0	2	2	0	1	1	2	2	0	10
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
35.その他	増	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1